



認証基盤ソリューション「Okta Workforce Identity Cloud」導入により
セキュリティリスク改善、管理コスト削減、ユーザビリティ向上を実現

将来的なビジネス拡張も念頭に、高いセキュリティを持ちかつ柔軟性の高いクラウド認証ソリューションを導入し課題を解決

事例のポイント

課題

- ・システム毎に異なるID管理/認証によって発生している運用コストを削減したい
- ・パスワード管理の煩雑さによる情報漏洩リスクを改善したい
- ・将来的なシステムリプレイスに対応したID認証の統合をおこないたい

導入

「Okta Workforce Identity Cloud」

成果

- ・認証基盤の統合により、開発期間の短縮とコストの削減および運用効率化が実現
- ・異なるパスワードの使い分けを統一することにより情報漏洩リスクを解消
- ・シングルサインオンによりユーザビリティが向上

「基幹系システムの開発を担ってる取引先としてはSCSKが1番開発実績が多い。その中で、さまざまな基幹システムと連携していく認証基盤であるため、その観点からSCSKが1番適任ではないかと考えました。」

次期基幹システム開発部 部長 梅田 浩一 氏

背景・課題

基幹ビジネスであるケーブルテレビ事業を支えるシステム群を刷新するプロジェクトを進行中

放送・通信サービスに加え、ホームIoT・オンライン診療等の生活安心サービス、電力・ガス等のエネルギーサービスを手掛けているJ:COMは、それらを通じて地域社会とお客さまの暮らしをサポートしている。同社は、お客さまへよりよいサービスを提供するため、下地となるオペレーションの高度化を目指し次期基幹システムプロジェクトを立ち上げた。

ケーブルテレビ事業のサービス・業務の中核を担う基幹系システムは、約20年に亘って事業要求に合わせた改修を実施してきており、骨格となるシステムについて、新しい技術を取り入れていくなどの抜本的な変革ができないままとなっていた。時代の変化・市場の変化とともに、新たなサービスの展開、また業務の変革・改善などにおいて、スピード感

を持った対応が要求されている。

そうしたケーブルテレビ事業からの要求に対し、将来に渡ってタイムリーかつ適切にその要求にこたえていくため、新しい技術も積極的に取り入れ、当社の基幹事業を強固に下支えするシステム基盤を構築しようとしている。

次期基幹システム開発部部長の梅田浩一氏は「基幹システムと言うのは、BtoC向けのお客様にサービスを提供していくシステムです。申し込み、契約、課金などいくつもの領域に分けられます。したがって、一度に全部を切り替えるというのはリスクが高い。またリソース的にも厳しいところがあるので、段階的に大きく3ステップに分け、順次取り組んでいる状況です。」と現在のプロジェクトを説明する。

更に「プログラム言語や、ハードウェアなどシステムのライフサイクル対応も必要になった。既存の基幹システムは古いのでなかなか目標とする改善対応が厳しい。そのような背景もあり、基幹システムの刷新に取り組んでいるところです。」と語る。

お客様プロフィール



JCOM株式会社

所在地 東京都千代田区丸の内1-8-1
丸の内トラストタワーN館

URL <https://www.jcom.co.jp/>

テレビ、ネット、スマホ、固定電話、保険、ホームIoT、オンライン診療、電気やガス等、あたらしい技術を誰もが使いやすいサービスとしてお届けし、地域社会とお客さまの暮らしをサポートしている。



JCOM株式会社
情報システム本部
次期基幹システム開発部
部長

梅田 浩一 氏



JCOM株式会社
IT企画推進システム本部
次期基幹システム開発部
アシスタントマネージャー

日高 聡 氏



JCOM株式会社
IT企画推進システム本部
次期基幹システム開発部

北 竜介 氏

解決策と効果

既存システムとのスムーズな連携とセキュリティ改善。更にコスト削減も実現

J:COMは、次期基幹システムプロジェクト進行にあたり、課題であるID認証基盤のリプレースを検討した。

現行システムではそれぞれシステム毎にID管理、認証機能を具備しており、コスト、運用工数の観点で無駄があった。また、ID認証が独自構築であったり、AD認証であったりとIDの用途からどのID認証機能を採用するか明確なルールがなかった。また、担当者が各システムを利用する際は、異なる複数のパスワードを使い分け、利用していたためパスワード管理が煩雑となり、ID認証運用において課題を抱えていた。将来的な基幹システムのリプレースにあたりID認証におけるセキュリティ強化やMFA、OTPなど新たな認証方法への対策をしていく必要があり、従来のシステム毎の独自認証ではなく、ID認証の統合が必要であった。

「パスワードを個別管理するところから、パスワード管理の運用が煩雑となり、それぞれログインが必要だと利便性が損なわれるというところがありました。」

担当者は異なるパスワードを複数保有することになり、パスワード忘れ等の問合せが頻繁に入り、パスワードリセット対応などもしなければならなかった。あとは、システム毎に認証機能を作る必要があるので、その分のコストが掛かる。

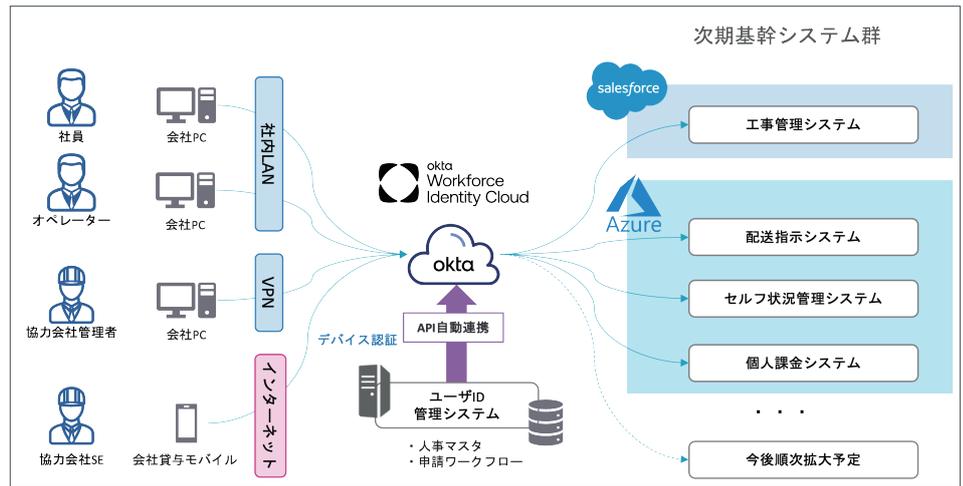
そして、基幹システムのリプレースにあたり統合的なセキュリティが担保されて共通で使えるような認証基盤として作る方が良いと考えました。」

(日高氏)

上記の様々な課題を解決できる認証システムとしてSCSKが提案したのが、「Okta Workforce Identity Cloud」である。

J:COMは他社と比較検討し、導入に至ったポイントを以下の様に挙げた。

「基本的にOktaで認証するIDを、既存システムと連携できたというのが、1つ大きなポイントです。既存システムで登録されたID情報をOktaの認証基盤で認証できないといけない。その連携がまずは容易であることがポイントでした。あとは認証対象のデバイスにiPadがあります。iPadだと社内LANではなくて、インターネットを経由したアクセスと、モバイル回線を使って入ってくるので基本的にどこの誰なのかがよく分からないのです。会社が保有するiPadだということが認証できること、いわゆるデバイス認証ができると



Okta Workforce Identity Cloud 利用イメージ

いうのも、大きなポイントになっています」

(梅田氏)

「あとは、SLAも比較の評価に入れていました。Oktaに関しては99.99%の稼働率を掲げていて、ダウンタイム実績もほぼないというところ。そこはすごく信頼性が高い。」(日高氏)

導入後は、直感的で分かりやすいUIデザインで、開発や運用時において複雑なオペレーションなく設定や確認が可能のため使いやすく、コスト削減面においても、独自の仕組みを構築した場合との定量的な比較は難しいが、機能開発で5~6ヶ月近くかかっていたものが、2~3ヶ月で対応できるようになったとの感覚に。特に、モバイルデバイスからのアクセスをセキュアに実現することは、開発期間、コストでは表せない効果と捉えている。パスワードの情報漏洩リスクを抱えた煩雑なパスワード管理も、担当者自身でパスワードリセットが可能となり問題を解消することができたという。

「あとは開発過程において私から問題を提起して検討していただいていたのですが、SCSKがすぐに「こういうやり方があります」「このような解決方法があります」と提案していただきました。今実際利用していて本当に何の問題もなく利用できている。そこはすごく助かりました。」(日高氏)

Oktaのシステム導入以降、現時点でOktaに起因した認証サービスの障害は発生しておらず安定稼働している。運用面においても「基本的にSCSKが運用をサポートしており、何か私の方で調べて不明な場合はSCSKにエスカレーションしています。SCSKもOktaと連携しており、スムーズに素早く回答ができています。」(北氏)

時間を割いていた問合せ対応も「ユーザーからの問い合わせが来るのがほぼなくなった。もちろんSCSKが運用しているので、その中でやっていることはあると思うのですが、我々が出て対応しなければいけないというのは、ほぼゼロになりました。」(日高氏)

今後の展望

現在も進行しているJ:COMの次期基幹システムプロジェクト。Okta導入により実現した効果を元に、次のフェーズに進んで行く。

「まだ導入しているシステムが少ないのでこれから広げていくことによって、本当の効果が創出される。それをまずは実現していかねばという段階です。」(梅田氏)

「まだ色々知らないシステム機能も多いと思うので、SCSKには新しい機能や提案を出してもらい、我々は使いやすく、ユーザーには安全性の高いものを提供できるようにしていきたい。色々機能を追加してことで我々の働く環境とかも変わっていくと思います。今後もディスカッションしながら、広げていけたらいいなと思います。」(日高氏)

記載内容は取材時現在の情報です。

SCSK担当者からの声



メディア事業本部
システム開発第二部第二課
課長
シニアプロフェッショナルITアーキテクト
後藤 彦彦

J:COM様のケーブルテレビ事業を支えるミッションクリティカルな次期基幹システムを刷新していくにあたり、クラウド認証基盤として「Okta Workforce Identity Cloud」を導入いたしました。この導入により、基幹システムは安定した運用、高いユーザビリティ、そして堅牢なセキュリティを実現し、お客様に安心してご利用いただける環境を提供できることを確信しております。

さらに、我々はJ:COM様の他システムもOktaへ統合することで、お客様に対する導入効果を拡大し、より一層のビジネス成長を支援する予定です。今回の導入は、顧客のビジネスを強固に支える基盤技術を提供する我々のコミットメントを再確認するものであり、今後も最先端のソリューションを提供し続けます。